

## 新製品発売のご案内

[ESOTERIC名盤復刻シリーズ]

チャイコフスキー:3大バレエ~《白鳥の湖》

《くるみ割り人形》《眠れる森の美女》組曲

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮)

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

ショパン:ピアノ・ソナタ 第2番《葬送行進曲付き》/第3番

アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ

スケルツォ第2番

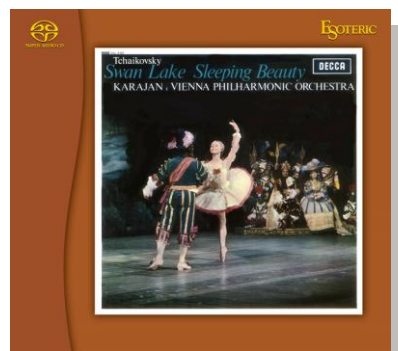
マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)

エソテリック株独占販売 2017年12月8日 発売

チャイコフスキー:3大バレエ~《白鳥の湖》  
《くるみ割り人形》《眠れる森の美女》組曲

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮)  
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

- 品番:ESSD-90171
- 仕様:Super Audio CD ハイブリッド
- 定価:3,611 円+税
- POS:4907034221936
- レーベル:DECCA
- 音源提供:ユニバーサルミュージック合同会社
- ジャンル:管弦楽曲



ショパン:ピアノ・ソナタ 第2番《葬送行進曲付き》/第3番  
アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ  
スケルツォ第2番

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)

- 品番:ESSG-90172
- 仕様:Super Audio CD ハイブリッド
- 定価:3,611 円+税
- POS:4907034221943
- レーベル:DG(ドイツ・グラモフォン)
- 音源提供:ユニバーサルミュージック合同会社
- ジャンル:器楽曲



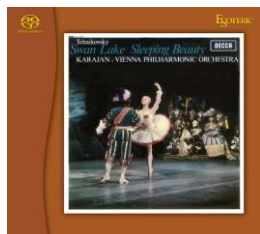
- DSD MASTERING/Super Audio CD 層:2チャンネル・ステレオ[マルチなし]
- 美麗豪華・紙製デジパック・パッケージ使用

“Super Audio CD”と“DSD”は登録商標です。

エソテリック株式会社(代表取締役社長 大島 洋)は、「名盤復刻シリーズ」Super Audio CDハイブリッド盤2作品を発売開始いたします。

今回の作品は、定評の丁寧なマスタリング作業によってSuper Audio CD化され、音質の向上はもとより、作品が本来備えた音楽的魅力を改めて浮き彫りにし、新たなる感動を約束するものに仕上がっています。この2作品はエソテリック株式会社の独占販売で、主にオーディオ販売店で販売されます。

## [アルバムの特徴]



チャイコフスキー:3大バレエ～《白鳥の湖》  
《くるみ割り人形》《眠れる森の美女》組曲  
ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮)  
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

チャイコフスキー作品の魅力がこれ以上ないほど魅惑的に解説された、まさに耳のご馳走。デッカ黄金時代の優秀録音、世界初ハイブリッド化。

### ■ESOTERICならではのこだわりの Super Audio CD ハイブリッド・ソフト

オリジナル・マスター・サウンドへの飽くことなきこだわりと、Super Audio CDハイブリッド化による圧倒的な音質向上で確固たる評価をいただいている ESOTERIC 名盤復刻シリーズ。発売以来 LP 時代を通じて決定的名盤と評価され、CD 時代になった現代にいたるまで、カタログから消えたことのない名盤を高音質マスターから DSD マスタリングし、世界初の Super Audio CD ハイブリッド化を数多く実現してきました。

### ■一時代を画したカラヤンのデッカ録音プロジェクト

ヘルベルト・フォン・カラヤン(1908～1989)こそ、レコード録音に対して終生変わらぬ情熱を持って取り組んだパイオニア的存在であり、彼が残した録音も SP 時代からデジタル録音まで、膨大な量にのぼります。その長い音楽活動の中でカラヤンが一つの頂点を迎えたのは、1955年にベルリン・フィルの常任指揮者、翌1956年にザルツブルク音楽祭およびウィーン国立歌劇場の芸術監督に就任し、文字通りヨーロッパ・クラシック音楽界の「帝王」と目されていた時期でしょう。録音面でも、1950年代初頭から継続しているロンドンでのフィルハーモニア管との EMI への録音に加えて、1959年からはベルリン・フィルとはドイツ・グラモフォンへの、ウィーン・フィルとはデッカへの録音がスタートし、ちょうどステレオ録音が導入されて活気付いていたレコード市場を席卷する形になりました。中でも、名プロデューサー、ジョン・カルショーとのコラボレーションによって、ウィーン・フィルと進められたデッカへの録音では、スタンダードなシンフォニーのみならず、ホルスト「惑星」のパイオニア的録音も含む多様なオーケストラ曲や綺羅星のような豪華キャストをそろえたオペラ全曲盤が続々と生み出されたのです。その中から当シリーズではすでに「ドヴォルザーク:交響曲第8番&ブラームス:交響曲第3番」、R. シュトラウスの管弦楽曲集を Super Audio CD ハイブリッド化し、ご好評をいただいております、今回はその続編として、チャイコフスキーの三大バレエを世界で初めて Super Audio CD ハイブリッド化いたします。

### ■ウィーン・フィルとの蜜月を刻印した芳醇な響き

1960年代前半といえば、カラヤンとウィーン・フィルとの関係が急激に深まった時期でもあります。この時期のカラヤンはベルリン・フィルの芸術監督(1955年～)、ウィーン国立歌劇場とザルツブルク音楽祭の芸術監督(1956年～)を兼任し、ミラノ・スカラ座とも関係を深めるなど「ヨーロッパの音楽総監督」と称されていました。1959年秋には日本も含むウィーン・フィルのアジア、アメリカ、カナダへの大規模な演奏ツアーに同行、1960年にはロンドンのフィルハーモニア管弦楽団との関係が一区切りついたこともあり、ウィーン・フィルとは定期公演、ウィーン芸術週間やザルツブルク音楽祭での共演を重ねるなど、その芸術的な結びつきが強くなっていきました。1962年からはウィーン国立歌劇場の裏方従業員の待遇不満についての争議に端を発する内紛が巻き起こり1964年には歌劇場の音楽監督を辞任するものの、コンサートでの共演やレコーディングは継続し、デッカでは「オテロ」(1961年)、「トスカ」(1962年)、「カルメン」(1964年)の全曲盤というビッグ・プロジェクトが相次いでいます。当盤のチャイコ

フスキー「三大バレエ」は、1961年9月録音の「くるみ割り人形」組曲と1965年3月録音の「白鳥の湖」「眠れる森の美女」組曲を組み合わせたものです。前者は、オペラ上演のスケジュールを縫って、約2週間の間に前述のドヴォルザークの第8番やブラームスの第3番、「ジゼル」、「惑星」など、5枚分のLPを収録したセッションでレコーディングされ、初出はグリーク「パール・ギュント」の抜粋とカップリングでした。後者は名プロデューサー、ジョン・カルショーのデッカにおける最後のプロデュース・アルバムとなったものです。いずれもカラヤンの颯爽たる指揮に敏感に反応し、濃厚な響きで応じるウィーン・フィルの魅力が余すところなく捉えられています。

#### ■カラヤンのLPでは定番の三大バレエ

カラヤンは特定のレパートリーを繰り返し録音したことで知られていますが、この三大バレエもまさにそうで、フィルハーモニア管とのモノラル録音以後、生涯にわたって4回ずつ録音を残しています。「白鳥の湖」「眠れる森の美女」についてはフィルハーモニア管と2回(1952年モノラル、1959年ステレオ)、ウィーン・フィル(1965年当盤)、ベルリン・フィル(1971年ステレオ)、「くるみ割り人形」はフィルハーモニア管(1952年モノラル)、ウィーン・



フィル(1961年当盤)、ベルリン・フィル(1966年、1982年)とまるで、録音技術の進歩およびレーベルの変遷に合わせて再録音を果たしているかのようです。特に「白鳥の湖」と「眠れる森の美女」は常に組みあわせて(ナンバーの選択も同じ)1枚のLPにしていますが、カラヤンはこの2曲の組み合わせをLPという20世紀半ばに誕生した画期的な長時間再生フォーマットに収録するのに最適のレパートリーの一つと考えていたのかもしれませんが。時間的にも26分と22分とLP片面に収録でき、しかもバレエ全曲中の最もポピュラーなナンバーが絶妙な起伏をもって配されているあたり、聴かせ上手なカラヤンならではの演出といえるでしょう。なお「白鳥の湖」で美しい独奏を披露しているのはコンサートマスターのヨーゼフ・シヴォー(1931-2007、在任1963-72)と首席チェロ奏者のエマニュエル・ブラベッツ(1909-1998)です。

#### ■最高の状態での Super Audio CD ハイブリッド化が実現

デッカが1950年代半ば以降ウィーン録音の根城としたグフィエンザールは、響きの多さのみならず、演奏会に多用され録音のためには確保しにくいミュージックフェラインとは違って、細部の音に至るまで明晰に収録しようとする同社の録音ポリシーには理想的な会場で、そこでの録音は、オーケストレーションの綾や空間性を生々しく再現する骨太なデッカ・サウンドの代名詞ともなりました。セッションは、ゴードン・パリーとジェームズ・ブラウンがエンジニアを担当し、各所で花を添えるウィンナ・オーボエやクラリネット、ウィンナ・ホルンなど管楽器のソロやアンサンブルの魅惑的な音色、芳醇な弦楽パートの厚みと立体感、ピッツイカートの存在感、そしてハーブの美しさなど、ウィーン・フィルの特徴的な響きを生々しく捉えています。歴史的な名録音だけに、CD時代初期からリマスターされ、デッカ・レジェンドによる24bit/96kHzリマスター盤としても発売されてきましたが、今回のSuper Audio CDハイブリッド化に当たっては、これまで同様、使用するマスターテープの選定から、最終的なDSDマスタリングの行程に至るまで、妥協を排した作業が行われています。特にDSDマスタリングにあたっては、DAコンバーターとルビジウムクロックジェネレーターに、入念に調整されたESOTERICの最高級機材を投入、またMEXCELケーブルを惜しげもなく使用することで、オリジナル・マスターの持つ情報を余すところなくディスク化することができました。



[収録曲]

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

バレエ組曲《白鳥の湖》

- [1] 情景[第 1 幕]
- [2] ワルツ[第 1 幕]
- [3] 小さな白鳥たちの踊り[第 2 幕]
- [4] 情景と白鳥の女王の第 2 の踊り[第 2 幕]
- [5] チャールダーシュ[第 3 幕]
- [6] フィナーレ[第 4 幕]

バレエ組曲《くるみ割り人形》作品 71a

- [7] 小序曲
- [8] 行進曲[第 1 幕]
- [9] 金平糖の精の踊り[第 2 幕]
- [10] トレパーク(ロシアの踊り)[第 2 幕]
- [11] アラブの踊り[第 2 幕]
- [12] 中国の踊り[第 2 幕]
- [13] あし笛の踊り[第 2 幕]
- [14] 花のワルツ[第 2 幕]

バレエ組曲《眠れる森の美女》

- [15] 序奏とリラの精[プロローグ]
- [16] パ・ダクシオン(アダージョ)[第 1 幕]
- [17] パ・ダ・カラクテール[第 2 幕]
- [18] パノラマ[第 2 幕]
- [19] ワルツ[第 1 幕]

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

[4] ヨーゼフ・シヴォー(ヴァイオリン)、エマヌエル・ブラヴェッツ(チェロ)

指揮: ヘルベルト・フォン・カラヤン

[録音]1961 年 9 月(7-14)、1965 年 3 月(1-6、15-19)、ウィーン、ゾフィエンザール

[LP 初出]SXL2308(7-14)、SXL6187(1-6、15-19)

[日本盤ステレオ LP 初出]7-14:SLC1185 (1962 年 11 月)、1-6、15-19:SLC1499~500 (1966 年 10 月)

[オリジナル・レコーディング][プロデューサー]ジョン・カルショウ[レコーディング・エンジニア]ゴードン・パリー、ジェームズ・ブラウン(7-14)

[レコーディング使用機材]ミキシング・コンソール:デッカ製(7-14)、ジューメンズ社(1-6、15-19)、マイク:ノイマン M50、KM53、KM56(7-14)、ノイマン M49、M50、KM53、KM56(1-6、15-19)、モニター・スピーカー:タンノイ社カンタベリー  
モニター・アンプ:デッカ製(7-14)、クオード社 50(1-6、15-19)、テープデッキ:アンペックス/EMI 社製 TR90

[Super Audio CD プロデューサー]大間知基彰(エソテリック株式会社) [Super Audio CD リマスタリング・エンジニア]杉本一家(JVC マスタリングセンター(代官山スタジオ)) [Super Audio CD オーサリング]藤田厚夫(有限会社エフ) [解説]諸石幸生 藁科雅美 [企画・販売]エソテリック株式会社 [企画・協力]東京電化株式会社

## [アルバムの特徴]



ショパン:ピアノ・ソナタ 第2番<葬送行進曲付き>/第3番/  
アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ/  
スケルツォ第2番  
マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)

若きアルゲリッチのパッションが爆発！ショパンの真実に迫る究極のピアニズムが刻み込まれたアナログ時代の名盤、ついにハイブリッドディスク化。

### ■ESOTERIC ならではのこだわりの Super Audio CD ハイブリッド・ソフト

オリジナル・マスター・サウンドへの飽くことなきこだわりと、Super Audio CD ハイブリッド化による圧倒的な音質向上で確固たる評価をいただいている ESOTERIC 名盤復刻シリーズ。発売以来 LP 時代を通じて決定的名盤と評価され、CD 時代になった現代にいたるまで、カタログから消えたことのない名盤を高音質マスターから DSD マスタリングし、世界初の Super Audio CD ハイブリッド化を数多く実現してきました。マルタ・アルゲリッチでは、「ショパン&リスト:ピアノ協奏曲第1番」、「アルゲリッチ バッハを弾く」に続くハイブリッドディスクとなります。

### ■アルゲリッチ躍進と充実の 20 年間

クラウディオ・アラウ、ネルソン・フレイレ、ダニエル・バレンボイム、ブルーノ・レオナルド・ゲルバーなど、南米出身の名ピアニストは数多いですが、その中でも最も奔放かつ情熱的な演奏で知られるのがマルタ・アルゲリッチ(1941.6.5 ブエノスアイレス生まれ)でしょう。5歳から名教師スカラムツァに学び、8歳でモーツァルトとベートーヴェンのピアノ協奏曲を弾いてデビュー。14歳の時ヨーロッパにわたり、グルダ、アスケナーゼ、ベネデッティ・ミケランジェリ、マガロフら名だたる名ピアニストに学んでいます。アルゲリッチの名がピアノ界にとどろいたのは1957年、16歳でブゾーニとジュネーヴの2つの国際コンクールで相次いで優勝を飾った時のこと。それを受けて1960年には名門DG(ドイツ・グラモフォン)からデビュー・アルバムを発表、さらに5年後の1965年、第7回ショパン国際ピアノ・コンクールでの優勝は、アルゲリッチの名と、美しい黒髪をなびかせた鍵盤の巫女を思わせる容姿とを一躍世界的なものにしたのでした。ショパン・コンクール優勝後は文字通り世界的な演奏活動を開始し、DGの録音も活発化し、リスト、シューマン、ショパン、ラヴェルらのピアノ曲、あるいはアバド/ベルリン・フィル、ロンドン響、デュトワ/ロイヤル・フィルらとの協奏曲を次々と録音し、絶大な人気を博しました。この20年間に録音されたショパン・アルバムは(ピアノ協奏曲2曲を除き)3枚で、当ディスクには1974年録音の「葬送ソナタ」、「アンダンテ・スピアナート華麗なるポロネーズ」、「スケルツォ第2番」に、1968年のピアノ・ソナタ第3番がカップリングされています。



### ■アルゲリッチといえばショパン

アルゲリッチのDGへのデビュー盤は1960年に録音されたソロ・アルバムで、既にここにはショパンの「スケルツォ第3番」と「舟歌」が収録されており、アルゲリッチのショパン作品への親和性を証明しているかのようでした。1967年1月に録音されたDGへの2枚目のアルバムにショパン作品が選ばれたのは、1965年のショパン・コンクール優勝者としては自然なことで、アルゲリッチの黒髪と黒い衣装が弾き立つようなモノクロ写真をジャケットに使ったLPは世界的なベストセラーとなりました。このアルバムに収録されていたピアノ・ソナタ第3番は、凄まじい前進性に満ちた演奏で、誰もがスピードを緩めることの多い第1楽章の第2主題でも減速せず、タッチのニュアンスを変化させることでリリズムを際立たせています。一方で第3楽章のラルゴではじっくりと沈潜した歌心で作品の本質を描き出し、第4楽章フィナーレでは再び圧倒的な前進性を持つ苛烈な演奏で作品を締めくくっています。その7年後、



1974年の録音された2枚目のショパン・アルバムでの「葬送ソナタ」は、ソナタ第3番で表に出ている猪突猛進の突進性よりも落ち着いたあるデリケートかつ多様なニュアンスに彩られているのが印象に残ります。「華麗なるポロネーズ」で付けられた天才的なまでのコントラストの見事さ、そして「スケルツォ第2番」でのシャープな切れ味は、この時期のアルゲリッチならではの冴えといえるでしょう。

#### ■ミュンヘンの2つの録音会場での名録音を最高の状態で Super Audio CD ハイブリッド化

録音は1950年代からミュンヘンの録音会場としDGが使ってきたレジデンツ内の2つのホールで行なわれました。1967年の「ピアノ・ソナタ第3番」が録音されたプレーナーザールは、バイエルン学士院(科学アカデミーという訳語もあり)の中の小ホールであり、ミケランジェリ、アマデウス四重奏団など、ピアノ・ソロや室内楽の録音に使われることが多かった会場です。一方1974年の録音で使われたのは学士院に隣接するヘルクスザール。ここは優れた音響で知られる1800人以上を収容できる典型的なシューボックス形式のコンサートホールであり、細部をマスクしすぎない適度な残響感、高域から低域までバランスのとれた響きの2点で録音には最適であり、マウリツィオ・ポリーニも好んでそのソロ録音をここで行ってきました。いずれもライナー・ブロック(プロデューサー)とヘインツ・ヴィルトハーゲン(エンジニア)という1970年代のDGの黄金コンビが手掛けた録音で会場の特性を知り尽くした安定感のあるバランスが聴きものです。よりインティメートな空間を感じさせる「ピアノ・ソナタ第3番」、より開放感のある74年録音の3曲ともに、共通しているのはアルゲリッチのピアノの響きとタッチのニュアンスが絶妙な明晰度で捉えられている点。アナログ時代のDGの録音技術の確かさの証左といえるでしょう。いずれも名盤だけにデジタル初期にCD化されて以来、オリジナルスでのリマスターのほか、「ピアノ・ソナタ第3番」に関しては2011年にシングルレイヤーのSuper Audio CD-SHM仕様として発売されてきました。今回のSuper Audio CDハイブリッド化に当たっては、これまで同様、使Super Audio CD用するマスターテープの選定から、最終的なDSDマスタリングの行程に至るまで、妥協を排した作業が行われています。特にDSDマスタリングにあたっては、DAコンバーターとルビジウムクロックジェネレーターに、入念に調整されたESOTERICの最高級機材を投入、またMEXCELケーブルを惜しげもなく使用することで、オリジナル・マスターの持つ情報を余すところなくディスク化することができました。

#### ■アルゲリッチだけが聴かせうる奔放にして華麗なる演奏家としての魅力が噴出

「(ピアノ・ソナタ第3番は)アルゲリッチのレコードの中でも最も初期の録音の一つだが、その演奏は今も輝くばかりの魅力で聴き手をまことに快く魅了する。特に、冴えわたった技巧と音を一瞬の緩みもなく活かし切った、感興あふれる演奏が持つ生命力はまことに強く新鮮で、全く間然とするところがない。しかもその演奏は、情熱のきらめきとともに元来のものとしか言いようのない見事な造形に裏打ちされており、豊かな流れの中にショパンならではの美しい抒情を歌っている。」(歌崎和彦、『レコード芸術別冊 クラシック・レコード・ブック 器楽曲編』、1986年)

「変ロ短調ソナタは相対的に息を止めるような演奏で、緩徐楽章すら普通より速いテンポで弾いているが、彼女らしい激しさがまた何とも言えない魅力となっている。スケルツォは華麗さと強烈さが一体となって融合し、彼女のアートの最高峰を聴かせてくれる。フィルアップの《アンダンテ・スピアナート》はリラックスした美しさと、それに続く《グランド・ポロネーズ》の火花を散らすようなきらめきが、素晴らしいコントラストをなして彼女のアートの魅力に引き込まれてしまう。」(三浦淳史、『レコード芸術別冊 クラシック・レコード・ブック 器楽曲編』、1986年)

「ここには既にアルゲリッチだけが聴かせうる奔放にして華麗なる演奏家としての魅力が噴出しており、燃え盛る炎のような吸引力に圧倒されてしまう。それは全曲がまるで刀の一振りにも似て料理される閃きと劇的集中力に溢れた演奏であり、聴き手は冒頭の一言からどこへ行くのか見当もつかない音のドラマの主人公となって波乱万丈の人生を生き抜く、そんな試練にも似た経験をするのである。」(諸石幸生、『クラシック不滅の名盤800』、1997年)

「この時彼女はまだ26歳。しかしここで噴出している驚くべき魅力は、今なお特別な光を放っている。抒情的な演奏、様式感のある演奏、ロマン的な演奏といった粹なんてここではもう何も関係がない。ショパンのソナタ第3番という希有な曲があって、アルゲリッチという希有なピアニストが現れたというだけ。これを冷静に聴けというのは無理というもの。ショパン演奏の19世紀からの系譜や、現代の演奏の

スタイルなどとも関係がない。まさにアルゲリッチ流の演奏で、聴く者はその中に引き入れられ、翻弄されるほかない。」(堀内修、『ONTOMO MOOK クラシック名盤大全・器楽曲編』、1998年)

「ソナタ第2番で、第1、第2楽章をいくぶん速めのテンポで弾いたアルゲリッチは、しなやかな抑えの利いた演奏によって第1楽章の〈葬送行進曲〉の緊張感を高めるとともに、その表現を一層深めている。奔放な情熱の閃く第1楽章の劇的な表現もすばらしいが、この女流が持ち前の才気あふれる演奏に、より柔軟な読みとコントロールを加えて、その成熟を強く印象付けた名演といってよいだろう。しかも熱くスケールの大きな演奏は、細部までしなやかな構成感によって裏打ちされ、いかにもニュアンス美しく、豊かな詩情を湛えている。」(歌崎和彦、『ONTOMO MOOK クラシック名盤大全・器楽曲編』、1998年)

「アルゲリッチの演奏が聴き手の心をつかんで離さない魅力を湛えているのは、むろんテクニックの冴えを前提として、またとない情熱の燃焼、あるいはイメージーションの飛翔を示して感動にまで導くからに違いない。その意味から彼女のショパンは、『女性の手により紡がれるショパン』の通念をひっくり返して、並みの男性では及びもつかぬほどのスケールの大きさ、雄勁さをそなえたものになった。第2番のソナタも、1曲のうちのドラマティックな性格とリリカルな性格の双方を存分に生かしたふり幅豊かな名演。第3番に関しては、部分的にいえば落ち着きを欠く趣が気にならなくもないが、やはり彼女ならではの演奏であることは確かだ。」(濱田滋郎、『ONTOMO MOOK クラシック不滅の名盤 1000』、2007年)

#### [収録曲]

フレデリック・ショパン

ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 作品35

[1] 第1楽章 グラーヴェードツピオ・モヴィメント

[2] 第2楽章 スケルツォ

[3] 第3楽章 葬送行進曲:レント

[4] 第4楽章 フィナーレ:プレスト

ピアノ・ソナタ 第3番 ロ短調 作品58

[5] 第1楽章 アレグロ・マエストーソ

[6] 第2楽章 スケルツォ:モルト・ヴィヴァーチェ

[7] 第3楽章 ラルゴ

[8] 第4楽章 プレスト・マ・ノン・トロポ

[9] アンダンテ・スピアナートと華麗なるポロネーズ 変ホ長調 作品22

[10] スケルツォ第2番 変ロ短調 作品31

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)

[録音]1967年1月、ミュンヘン・レジデンツ内バイエルン学士院、プレーナーザール(5-8)、

1974年7月、ミュンヘン・レジデンツ内ヘルクレスザール(1-4,9,10)

[初出]5-8:139317(1968年)、1-4,9,10:2530530(1975年)

[日本盤初出]5-8:SLGM1440(1968年8月)、1-4,9,10:MG2491(1975年7月1日)

[オリジナル・レコーディング][エグゼクティブ・プロデューサー]オットー・ゲルデス(5-8)[プロデューサー]ライナー・ブロック  
[バランス・エンジニア]ハインツ・ヴィルトハーゲン

[Super Audio CD プロデューサー]大間知基彰(エソテリック株式会社) [Super Audio CD リマスタリング・エンジニア]杉本一家(JVC マスタリングセンター(代官山スタジオ)) [Super Audio CD オーサリング]藤田厚夫(有限会社エフ) [解説]諸石幸生 藁科雅美 [企画・販売]エソテリック株式会社 [企画・協力]東京電化株式会社

#### エソテリック独占販売

エソテリック特約店にてお求めください。エソテリック特約店につきましては弊社ホームページの「製品展示・販売店のご案内」または「AVお客様相談室」へお問い合わせください。

ホームページ 製品展示・販売店のご案内 <http://www.esoteric.jp/support/shop/>

AVお客様相談室

受付時間:9:30~12:00/13:00~17:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

0570-000-701(ナビダイヤル) PHS・IP電話からは Tel 042(356)9235/Fax 042(356)9242